

☆年間第17主日(7月30日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (列王記上 3章 5, 7-12節)

その夜、主はギブオンでソロモンの夢枕に立ち、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう」と言われた。わが神、主よ、あなたは父ダビデに代わる王として、この僕をお立てになりました。しかし、わたしは取るに足りない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません。僕はあなたのお選びになった民の中にいますが、その民は多く、数えることも調べることもできないほどです。どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。そうでなければ、この数多いあなたの民を裁くことが、誰にできましょう。」

主はソロモンのこの願いをお喜びになった。神はこう言われた。「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない。」

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章 28-30節)

皆さん、神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

福音朗読 (マタイによる福音書 13章 42-52節)

そのとき、イエスは人々に言われた。「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。

また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」弟子たちは、「分かりました」と言った。そこで、イエスは言われた。「だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

フライパンの上にいるような猛烈な暑さが続きます。雨がまったく降らないので、砂漠はこんなものなのかと思うぐらいです。無理せず体調管理を優先してください。火曜日からはいよいよ八月に入ります。八月はいろいろの記念があり忙しいですね。観光旅行に出かけられる方、帰省される方、地域のお祭りや花火大会、教会では青少年委員会子供会キャンプ、聖母被昇天祭などスケジュールがいっぱいですね。

さて今日のミサでは神さまは私たちに何を語られるのでしょうか。暑い中ですが耳を傾けて聴きましょう。

第一朗読 (列王記上 3章 5, 7-12節)

ダビデ王の息子ソロモン王の知恵についての話が読まれます。ソロモン王はダビデ王から王権を継承した人ですが、このソロモン王の時代には平和が約束されていました。王国を適切に治めるために必要な願い事をするように神は彼に語り掛けられます。ソロモン王は「民の訴えを聞き分ける知恵」を願います。これに対し神はその願いを喜ばれ彼に「知恵に満ちた賢明な心」を与えられます。神は願えば何でも与えられたでしょうが、ソロモン王は自分のためではなく民のために役立つ知恵を願ったのです。私たちの祈りも自分のためばかりではなく人々のため、すなわち神のみ旨が行われるように願うことが大事なのです。イエスの教えてくださった主の祈りの中にある通りです。「み旨が行われますように・・・」。

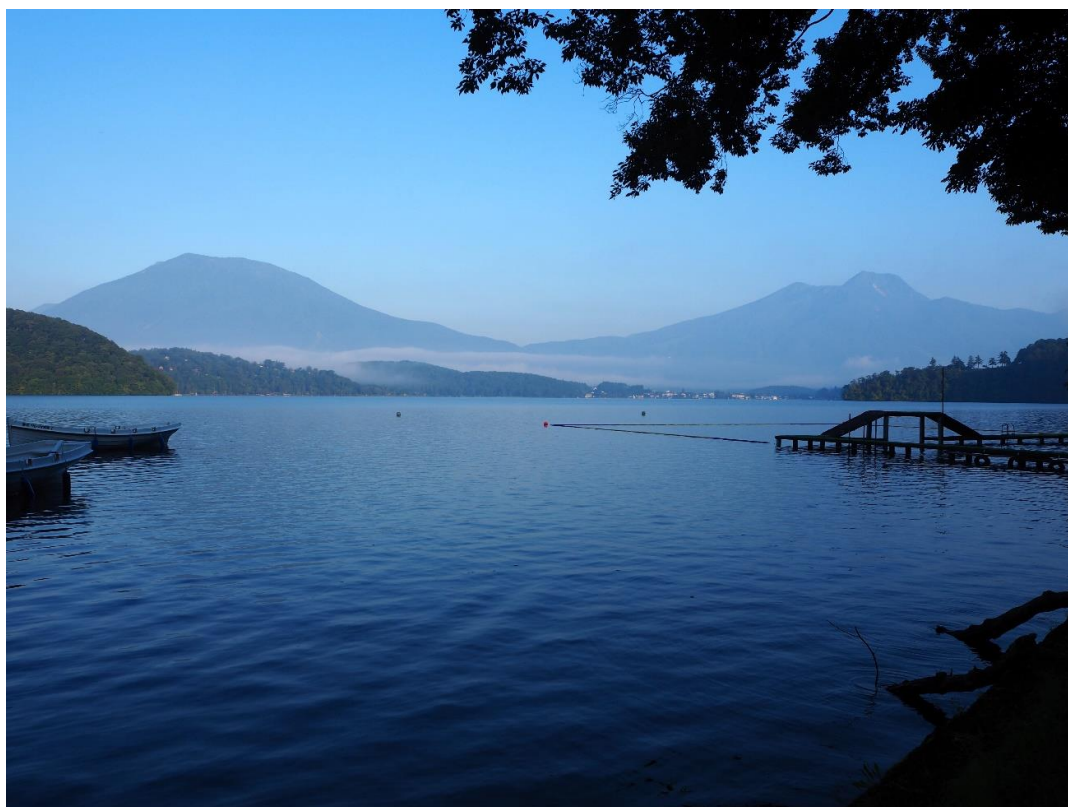
第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章 28-30節)

使徒パウロは神の計画がどのような意図をもって遂行されていくのかについて述べているようです。神は何をどのようにお望みなっておられるのか。神は選ばれた人々が「御子の似姿」になるように、そして、御子が多くの兄弟たちの中で長子となるように、イエスに従う人々を召し出し、義とし、栄光をお与えになられるのですと使徒パウロは信徒に諭しています。父なる神の願いはこの世において御子イエスが人々に受け入れられ、その教えを信じ、イエスの兄弟として父なる神に受け入れられることなのでしょう。イエスが何を望んで宣教されていたのかを改めて考えましょう。

福音朗読 (マタイによる福音書 13章 42-52節)

天の国についての譬えです。「畑に隠された宝物」「高価な真珠」を探す人の話です。徳川将軍家の埋蔵金とかたくさんの財宝を積んで海に沈んだ船の話とか今でもいろいろありますが、イエスの時代にもそんな宝物を探す人たちがいたようですね。そのような人たちにとって宝物を見つけたら「持ち物をすっかり売り払って」すなわち決死の覚悟をもってそれを我がもの

にするために行動を起こすと、イエスは言われるのです。天の国とはそのように私たちの全財産をかけても我がものにする価値のあるものだとイエスは言われるのです。私たちにそのような覚悟があるのでしょうか。自分のものをすべて売り払うとは今の私たちにとってあまりにもリスクの高いものではないでしょうか。ハイリスク・ハイリターン？ 私たちはあまりにも保険に頼りすぎではないでしょうか。イエスの言葉に生涯をかけ、財宝(天の国)を我がものにした人々、殉教者、聖人たちが数えきれないほどいるのです。



長野県野尻湖畔の朝の景色(左黒姫山、右妙高山) 2023年7月

P.S.

暑さが尋常でない日々が続きます。日曜日のミサにも来れないほどの方もおられるのではないのでしょうか。どうぞ無理なさらずご家庭で祈りながらお過ごしください。また長い祈りでなくとも短く主の祈り、アベマリアの祈り、などを少し唱えて、神さまに心を向けることが大切なのです。イエスさまも「異邦人のようにくどくどと長い祈りを唱えるな」と仰っていますよ。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光